

授業科目名 (英訳)	生体防御学—感染・アレルギー・免疫 Medical and Biological Aspect of Infection, Allergy and Immunity					担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授・光山 正雄				
配当学年	1 回生	単位数	4	開講年度 開講期	H27 前期	曜時限	金/1・2	授業形態	講義	使用言語	英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>近年のトリインフルエンザ流行への懸念や 2014 年の西アフリカにおけるエボラ出血熱アウトブレイクなど、国境を越えて伝播する新興感染症は地球規模での大きな問題となっている。一時はワクチンや抗菌剤の発達で克服できるかと思われた各種感染症は、有効なワクチン開発の停滞や薬剤耐性の増加により、今後も地球規模での脅威となり続けることが危惧される。加えて、高齢化や医療行為に伴う免疫系の機能低下は、従来ほぼ無害であった微生物による日和見感染症を増加させてきた。今や（伝染性）感染症はグローバル課題の重要なひとつとなっている。医学・医療の領域にとどまらない広範な知識と分析法を駆使して挑戦していくことが要求される現在、感染症に関する基本的な知識に加え、社会学、国際公衆衛生的視点も加え、感染症に対応するグローバルな視点を修得する。</p>											
〔到達目標〕											
<p>①主要なグローバル感染症についての基本的知識を身につける。</p> <p>②それらがどのような社会背景のもとに問題となってきたかを理解する。</p> <p>③生体の免疫防御機構の基本的なシステムを包括的に理解する。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>【第 1 回】 : イントロダクション</p> <p>【第 2～3 回】 : 微生物による感染症の概要、歴史と現状</p> <p>【第 4～6 回】 : 細菌の構造と機能</p> <p>【第 7～9 回】 : 細菌の薬剤感受性／耐性、病原性</p> <p>【第 10～11 回】 : ウイルスの構造と感染機構</p> <p>【第 12～13 回】 : 易感染性宿主と日和見感染</p> <p>【第 14 回】 : 特殊な病原体プリオン</p> <p>【第 15 回】 : 新興・再興感染症の背景</p> <p>【第 16～19 回】 : 生体防御機構の概要、抗体産生機構</p> <p>【第 20～22 回】 : 細胞性免疫機構、移植免疫</p> <p>【第 23～24 回】 : 自然免疫機構と炎症反応</p> <p>【第 25～26 回】 : アレルギー疾患の原理と実態</p> <p>【第 27～28 回】 : 自己免疫病</p> <p>【第 29～30 回】 : 生体防御機構とグローバル感染症</p>											
〔履修要件〕											
特に基礎知識は不要											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
筆記試験および一部レポート											
感染症に関する基礎的な知識の他、グローバルな視点の修得度により総合的に判断する。											
〔教科書〕											
特に指定しないが、毎回資料を配布											

[参考書等]

必要に応じて文献を配布

[授業外学習（予習・復習）等]

[その他（オフィスアワー等）]

753-5138, mistuyama.masao.6e@kyoto-u.ac.jp